

## 医師部門（国際）

受賞者： くろかわ きよし 黒川 清（81歳）

特定非営利活動法人日本医療政策機構 代表理事



東京大学医学部を卒業後、同大学院医学研究科修了。東京大学医学部附属病院インターンを経て、63年に同第一内科へ入局。その後69年から米国へ留学、当時としては異例の14年の滞在期間にはペンシルベニア大学、カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）、南カリフォルニア大学と、3大学の医学部を渡り歩き、UCLA内科教授となった。カリフォルニア州医師免許、米国内科専門医、腎臓内科専門医の資格を持つ。

83年に東大に戻り、米国式の臨床講義、教授回診のプレゼン、新しい医学教育に取り組むハーバード大と東大の学生交流などを実施するなど日本の医学部教育の改革に着手した。60歳の定年を目前に控えた96年、東海大学医学部長に就任。日本の大学に根付くタテ社会の論理に問題意識を持ち、臨床、教育、研究など後輩の育成に精を出した。次世代の「独立した」“アカデミック・フィジシャン”を育てる責任は教授にあるという欧米の哲学を胸に、長年にわたって世界に通じる一流の医師を育てることに貢献してきた。

81歳を迎えた今も世界各国を飛び回り、次世代のリーダーが育ってくる国際社会を相手に、グローバルヘルス政策を展開するため活動を続けている。国際関係に太いパイプを持っているが、代々医師の家系に生まれ、自身も医師として医療界の重鎮とされている存在である。医師、教育者、研究者としての道を極め、卓越したリーダーシップと行動力によって日本の科学者を代表する機関である日本学術会議をリードしてきた他、日本の医療が抱える高齢化社会に対する課題に斬り込み、国際社会に対応できるような日本の医療改革を推し進めている。

推薦者： 渋谷 健司 東京大学医学部医学系研究科 国際保健政策学教室 教授